

①さる折しも、②白き鳥の、嘴と脚と赤き、鷗の大きさなる、

水の上に遊び ③つつ魚を食ふ。

問一 傍線部①は「ちようどそのとき」という意味だが、「そのとき」とは次のどのときを指すのか。

ア「川のほとりに群れゐて……わび合へる」とき  
 イ「渡し守が『はや舟に乗れ。』と  
 言つたとき  
 ウ「乗りて渡らむと」したとき

問二

傍線部②の中の「嘴」は何を指すか。

ア目 イ羽 ウくちばし エ水かき

①さる折しも、②白き鳥の、嘴と脚と赤き、鴟の大きさなる、

水の上に遊び ③つつ魚を食ふ。

## 問三

傍線部②は省略されている語を補うと次のようになる。

白き鳥の、《嘴と脚と（が）赤き、  
鴟の大きさなる》（やつが）

※《》の部分で、どうい  
う「やつ」かを説明している。

「白き鳥の」の「の」は次のどれ？

ア 「が」 // 主語を示す

主語が

例 国の乱るるによりて

イ 「の」 // 限定

限定

例 国語→国語の教科書

ウ 「で」 // 言い換え ※同格の「の」

例 焼きたてのパンの、

例 烧きたてのパンの、

表面がパリッとしているやつ

①さる折しも、②白き鳥の、嘴

と脚と赤き、鷗の大きさなる、  
水の上に遊び ③つつ魚を食ふ。

問四 傍線部②は次のどちらか。

イア 形容動詞「大きなり」の連体形  
名詞「大き」

+ 断定の助動詞「なり」の連体形

※形容動詞の場合は上に程度を表す  
言葉がつけられる。

○いと 静かなり

↓形容動詞

×いと 王なり

↓名詞 + 断定の助動詞「なり」

①さる折しも、②白き鳥の、嘴  
と脚と赤き、鷗の大きさなる、  
水の上に遊び ③<sup>(3)</sup>つつ魚を食ふ。

## 問五

傍線部③は、ここでは次のど  
の意味？

ア うては

例 .. A竹を取りつつ（竹を取つて  
は）Bよろづのことくに使ふ

※「A↓B」の繰り返し

イ うし続けて

例 .. 思ひつつ（思い続けて）あり  
けり ※同じ行動の継続

ウ うしながら

例 .. 歌をA聞きつつ、B舟を漕ぐ

※二種類の行動を同時に実施

このページは空白ページです